

明善同窓会 関東支部 会報

発行：明善同窓会関東支部
会報委員会
事務局：世田谷区上馬 1-2-11
電話：03-3421-6071
ホームページ：
<http://www.jinryoku.com/>



関東支部会長就任のご挨拶

関東支部会長 昭和44年卒 瀬戸 渡

昭和が終わり平成になって早いもので27年を迎えます。昨年は、昭和の時代から長い間慣れ親しんだ校舎が全面建替えということで、青春のページに別れを告げるべく母校を訪れた卒業生も多かったと聞いております。



明善同窓会関東支部では、昨年の総会で私が新会長に、代表幹事に山口務（45卒）、事務局長に古賀尚之（45卒）が承認され就任しました。母校と卒業生のために精一杯頑張りますので、皆様には今までと変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

さて、今年の支部活動ですが、昨年に続き①学生の会活動の強化、②幹事活動の充実、を重点目標にしています。①については、伊東「学生の会」委員長（55卒）を中心に始めましたOB・OGと学生との交流の機会をさらに増やしていきたいと思っています。具体的には学生たちが興味を持っているテーマについての講演会や、悩み相談や就職支援の機会などを増やしていきたいと考えています。

②については、毎月第四木曜日に池袋サンシャイン60で幹事会を開催しており、卒業年次ごとに幹事を選出いただき出席いただくようお願いしております。母校と後輩支援の支部活動にご協力いただく幹事の選出をお願いいたします。特に30代、40代の卒業生の参加を期待しております。就任に先立ち明善同窓会関東支部の歴史をひも解いてみました。記録によると第1回総会が今から35年前の1980年に開催され、その後第7回までは2年毎に開催されていたようです。94年の第8回から毎年開催されるようになり、今年は第29回目に当ります。当番は62年卒の皆さんです。

今年の総会は、新緑の季節5月24日（日）、初めての日曜日開催です。多くの会員はお仕事がお休みだと思います。明善中学、久留米高女の諸先輩をはじめとして、たくさんの皆様のご参加をいただきますようお願いいたします。最後に、関東地区にお住まいの卒業生約二千名には毎年支部総会のご案内と会報をお届けする際に、年会費の振り込み用紙を同封させていただいております。お預かり

した会費は、通信費や会報の製作費、総会経費の補助、学生の会、部活動などで上京する現役学生の応援費用などに使わせていただいております。まだ会費をお納めでない方がいらっしやいましたら、趣意をご理解の上ご協力をいただきますようお願いいたします。

会長退任挨拶「烏兎忽忽の四年に感謝！」

関東支部相談役 昭和41年卒 別府秀喜

2010年に支部会長に就任し、昨年7月任期満了を迎えました。どうか無事任期を務め終えることができました。



これは偏に母校の校長先生並びに諸先輩のお力添え、同期や後輩諸君のご協力の賜物と改めて感謝！申し上げます。

就任時「組織の維持発展のために、先輩諸氏の経験と知恵を拝聴し、若い諸君の参加を促したい」と申し上げ、組織基盤の強化と世代を超えた会員相互の交流促進など「五つの基本方針」を掲げ活動して参りましたが、どれだけ成果が上がったか、些か心許なく反省しきりです。

「烏兎忽忽」「光陰矢の如し」と申しますが、あつという間の4年でした。それでも色んな事がありました。多くの尊い人命を失った11年3月の驚愕の激甚災害、東日本大震災や豪雨・豪雪災害、第二次安倍政権が誕生した国政選挙（第46回衆議院選挙、第23回参議院議員選挙）、夏季・冬季五輪（ロンドン・ソチ）など。年々歳々、光速で時間が過ぎるように感じられ、大切な時を見過ごしていないか自問する日々です。

さて、瀬戸渡君（昭和44年卒）が昨年7月、新会長に就任し同窓会関東支部の新執行部が動いています。皆さまのご支援、ご協力を心からお願ひ申し上げます。

今年も関東支部同窓会が5月24日（日）、風薫るいい季節です。お一人でも多くの方のご出席をお願い致します。

ご挨拶

校長 高松亮輔

「若草萌ゆる大原や はた筑後路の夕もみち あはれはいかで知らざらん 退廃の氣を厭ふのみ」
管弦楽部、弁論部の全国大会出場等、既存の部活動の

活躍を始めとして、ボルダリングの世界大会出場、俳句及び競技カールの全国大会出場、冬季国体アイスホッケー競技及びラグビー日本Jrチームへの選抜等、今年は多方面に渡り生徒の活躍が顕著でした。また、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業も3年目を迎えて



確実な成果を示す等、本校生徒は生き生きとした思いで毎日を送っております。その前向きで積極的な姿勢こそが生徒の成長・本校の飛躍の根源であり、営々と継承されている明善の伝統でありましょう。大学進学実績等というものは年によって浮き沈みもありますが、明善生は確実に成長していると自信を持って言うことができます。とは言え、生徒たちはまだまだ未熟でもあり、学ばなくてはならないことがたくさんあります。

現在明善では、「配慮の精神」の修得を教育の目標としています。状況を的確に把握し、相手を知り、己の採るべき最善の策を適切に判断する能力はこれからの時代には欠かせないでしょうし、いわば知力だけでなく徳性もしくは感性といった領域に渡ってその土台を高校時代に醸成しておくことはグローバルリーダーを目指す上では極めて重要だと考えています。本年度、平成2年度卒の15名の皆さんにご協力をいただいてキャリア教育を実施しましたが、先輩方の仕事への情熱と現場の厳しさ・やり甲斐、高校時代にすべきこと等、明善生が学ぶべき大事なことが凝縮されており、「配慮の精神」を体得するとても有意義な会となりました。また、修学旅行ではベトナム・カンボジアを舞台として世界を見る目を育て、さらにアメリカ研修では、最先端の研究を学ぶとともにオーランドサイエンスハイスクールとの研究交流を始める等、真に生徒に有益な活動へと進化しています。

世界に駆ける若人が更なる自信と責任を持って成長できるように教育の充実を図って参りますので、どうか先輩諸氏の一層のご指導とご協力を賜りますよう、お願いいたします。

最後になりましたが、明善同窓会関東支部の皆様の本校教育への日頃からのご理解とご支援に心からお礼申し上げますとともに、全国大会出場選手への心温まる応援等、本校生徒たちへの先輩諸氏の深い思いに厚く感謝申し上げます。ご挨拶といたします。

ご挨拶

同窓会会長 昭和41年卒 眞木大樹

瀬戸会長を始め、明善同窓会関東支部の皆様には何かとご指導ご鞭撻をいただいておりますこと心からお礼申し上げます。

昨年の広島の大土石流や御嶽山の噴火など、このところ日本列島は自然災害が多く、明善関係者の中にも被災された方々もいらっしゃると思います。お見舞い申し上げます。



さて、昨秋の大同窓会より約半年、母校の校舎も順調に建設が進められ、今までの正面玄関の棟が解体され、新校舎の姿がだんだん垣間見ることが出来るようになりました。モスグリーンの屋根とベージュ（肌色）の壁面のスマートな校舎を見ることが出来ます。予定通り進めば2年足らずで全ての工事が竣工する予定と伺っております。同窓会館も具体的な動きをせねばと思っております。

近年、地方創生ということばがよく使われるようになりました。ふるさと久留米は中核市になって人口が減少しましたが、やっと歯止めがかかったと市長の話がありました。東京など大都市への人口の集中など地方都市は大変な努力とアイデアが必要になっていると思います。

久留米は博多まで新幹線で20分弱、快速で40分、西鉄の特急電車で30分、その他高速バスなど交通の利便性はいろいろな選択肢があり都市機能としては優れていると思います。しかし母校の校歌にもあります通り、二千人の生徒を有した時代もあったのに、今日はその半分程の生徒数です。少子化の影響と言ってしまうとそれまでですが、時代の変遷を感じさせます。生徒の数は少ないですが、大学の進学や成績などは今日の方が、より頑張っているように感じています。関東明善会の各位におかれましては、後輩達の更なるご指導を賜りますようお願い申し上げます。

結びに各位の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。ご挨拶と致します。

訃報

関東支部元会長 井上正夫様
が2月16日、ご逝去されました。
81歳でした。



昭和27年明善高校卒業後、東京大学経済学部へ進まれ西武百貨店に就職、その後各店舗の開発やサンシャイン60の開発に携わり、最後は株式会社WOWOWの取締役を務められました。その後は長年に亘り関東支部会長を務められ、同窓会の発展に多大なご尽力頂きました。

また、久留米つづじ会、東京高卒礼会、東京御井町会の役員として活躍されました。
ご冥福をお祈り致します。

載なのに、日本の高校理科から地学が消えてしまった。気候・気象の国連機関で長く活躍してきた黒岩君は、今、高校生にメッセージを発するに最適任であった。

もう一つは念願の東京での歓迎会、ただしすぐに彼はフィジーに発つので、歓迎会となった。限られた日程のため結局、2014年度の明善大同窓会と重なる10月4日(土)しか取れなかった。同期幹事の山口君を含め、関東のコアなメンバーも少なからず久留米に移動する。東京で分派活動をするように申し訳なかったが、開き直って、東京以外でふだん会えない同期生、同級生にも広く声をかけた。会場は、不参加の山口君が手配してくれた神田の行きつけの梅亭。熊大で最先端の免疫研究を行っている、これも1年、3年同級の西村泰治君が、東京出張を延長して参加してくれた。実は、そのほかにも初めての参加者複数や久しぶりの人、そしてサプライズ参加もあり、二次会分の遅くまで腰を落着けて、秋の夜長に旧交を温めることができた。マスターのご厚意が有り難い！



横浜交響楽団の首席フルート奏者として活躍している草場伸也君も初参加で、これが機会となって年末には改めて、神奈川県民ホールで開かれたベートーベン交響曲第九の演奏会に、家族連れの同期生がまた多数集結した。さて、2015年は、このようにして広がった同期の輪がまた楽しみである。次はフィジーでやろうか！

四六会 第12回木曽路宿場町の旅

昭和46年卒 本村龍史

明善四六会恒例の秋旅行は第12回目で木曽路に出かけた。昨年の熱海旅行の帰りに、昼神温泉の話になり、だったら妻籠宿馬籠宿方面の旅にしようとの意見が出たためである。広く参加者を募集したところ、近くの御嶽山の噴火にも関わらず、地元福岡から2名、広島から1名、大阪から1名の参加があったが、当日不幸があった者、病気になる者の2名がキャンセルとなり、15名参加予定が男7名女6名の総勢13名となった。11月15日、新宿で10名集合し2台に分乗、府中集合の3名も、中央高速の談合坂サービスエリアを目指し、多少の渋滞があったため、午前10時無事談合坂にて合

流した。行程で決まっているのは、妻籠宿馬籠宿と昼神温泉の宿、天竜ライン下りだけというアバウトさにさっそく協議開始、奈良井宿によることを決めて3台に分乗し出発。伊奈インターを降り権兵衛街道を進み、木曽路11宿中2番目の宿場「奈良井宿」に到着。古い町並みのいたるところに菊で丸く飾った桶や鉢が置かれてあり、散策を楽しむ。奈良井宿で遅い昼食として、蕎麦や五平餅を味わった後、中山道42番目の宿場、「妻籠宿」を目指して、景勝地「寝覚ノ床」も無視を決め、ひたすら国道19号線を南下する。妻籠宿は有名で観光客も多く、曲がりくねった宿場町の街並みを思い思いに散策した。軒下につるした干し柿が暖簾のようにぶら下がっていた。ここでも、のんびりすぎたため遅くなったが予定通り次の馬籠宿に移動した。馬籠宿は、先の県をまたぐ合併で、長野県から岐阜県中津川市になったところである。馬籠宿は傾斜地にあり石畳の両側に古い家並みが続いている、着いた時はすでに夜に灯される灯籠のような物を石畳の上に等間隔に並べる作業が始まっていた。藤村記念館も見ず、お土産に有名な栗きんとんを求める一行だった。記念写真を撮って、昼神温泉へと向かった。宿ではあたたかい食事の後はいつもの様に一部屋に集合し体育会系の飲み会へ！しかし、歳の為か以前より随分早めの解散となった。

翌朝は朝市へ出掛ける者、朝風呂を楽しむ者など、のんびりと宿を出て、天竜川の川下りへと向かう。少々早く着き、乗り場付近の一周40分程の遊歩道を散策する。数名が疲れるからと途中で戻ってしまったが、天竜川として、よく雑誌やパンフレットで紹介される景色とであった。生で見ても写真通りでよかった。いよいよ川下りの順番が来たので、全員救命具を着用して船に乗り込む。結構寒い、12月からは船に炬燵が供えられるそう、今が一番寒いようだ。緩やかな流れが続く、チョット歳を召したガイドさんが訛り交じりに紹介してくれる。一瞬急流を過ぎるとまた穏やかな流れに身をまかせ、ガイドさんの民謡を聴きながら、猫が数匹お迎えしてくれる、終点の唐笠港へ着く。そこからは元善光寺へ出発するも途中で遅い昼食を取り、ゆっくりしすぎて残り2キロほどで、大阪へ帰る者を中津川駅まで送る為断念



し解散した。また、今回もだら～とした計画性のない旅行になってしまった。

還暦お伊勢参りく60歳の修学旅行&第9回最終同窓会

明善同志47会 豊島栄三郎

時が経つのは早いもので、47年卒の私たちも還暦を迎えました。

嗚呼還暦。実感は今ひとつなのですが、それにしてもあれから四十余年、それぞれの人生、それぞれの感謝の気持ちをぶら下げて、総勢50名でお伊勢参りに行ってきました。

みんなが集まると、卒業後の長い長い時間も肩書きもどこかに吹き飛んで、あの明善で過ごしたたった3年間にタイムスリップします。ひとさまから見るとおっちゃん、おばしさんの枯れススキ集団、本人たちは青々とした100%18歳気分、名前をちゃん付けて呼び合う不思議集団、そんな50人の2泊3日でした。夜の宴席では、ここでは書けない「今だから言えること」と題して、当時やった「わるさ」を告白してもらい、みんなで大笑いして盛り上がりました。

酒と笑い感謝の3日間でしたが、昔と違って多くが仕事を続けており、一泊だけの参加者や、宴会に来て朝飯だけ食べて帰るという仲間もいた次第です。久留米でやった反省会では、すでに3年後に旅行会をやるのが決まっています。仕事などで今回来れなかった仲間も今度は参加できるでしょう。

そして、今年の1月24日には、恩師を含めて127名が参加し、「同志47会」最後の同窓会を行いました。卒業後初めて会った仲間もいて、盛り上がりは二次会まで続きましたが、これをもって「同志47会」の活動は終わりにしました。これまで世話をしてくれた仲間にも心から感謝しています。本当にありがとうございました。

(気になる先輩やかわいがった後輩の写真、旅の詳細などは「同志47会」のHPから「こぢんまり会」「2014」をご覧ください。)



転校生だった私ですが

昭和51年卒相当 和田利也

部同窓会を、11月15日(土)、銀座で開催しました。二次会はレストラン、二次会はビヤホールでの集まりでしたが、参加したのは、総勢19人。最近、毎回30人前後が参加していたのですが、時季的に公私ともにお忙しいのでしょうか、今回は若干少なめの人数で、こじんまりとした会になりました。散会後も、寒空の下にもかかわらず別れ難く、二次会会場の前の路上で大騒ぎをしながら通行人にシャッター切るのをお願いしたりして、何枚も記念写真の撮影を行ったことが印象に残っています。



私たちの学年は、明善高校入学後40周年を過ぎ、57歳を迎えて、勤め人は定年とその後の人生がそろそろ見えてきますし、私生活では、親の介護や子供の独立などがあり、早い人では初孫誕生というようなおめでたいニュースもあって、結構、人生の大きな転機にさしかかっている世代です。もしかししたら、若かりし日に経験した、就職や結婚、出産育児よりも、いちどきに来る大きな変化なのであるかもしれません。

そんな中で、毎年春と秋の2回開催している同窓会は、同級生が集まって、公私にわたって転変のさなかにある近況を報告しあい、喜びや悲しみ、苦労を分かち合って、気の置けない仲間たちと束の間の楽しい時間を共有できる、他では得難い愉快な集まりになっています。時には、関東以外、九州の地元や北の果てからの遠方の同級生も参加してくれます。

実は、私は高校2年の途中で転校したので、明善を卒業はしていません。たまたまFacebookで昔の同級生と巡り合い、関東で同期会をやっているから出席してみてはと誘われて、一昨年の春に、初めてこの会に参加しました。約40年ぶりの再会、また3年間在学した訳ではないので初めてお会いする方も多かったのですが、すぐに馴染めた上に、今回は幹事まで、このおおかさというか、分け隔てのなさは、県民性から来るものか、はたまた校風に由来するものなのか、いずれにせよ、本当に有難く思っています。

これからさらに月日がたち、ある人は郷里にUターンするかもしれませんが、関東に残る同期生でこの強固なつながりを大切にしていきたいと思っています。(昭和51年3月に卒業した筈の今回の幹事代表)

20年を迎えた『よいかい』

『よいかい』 副幹事長 昭和41年卒 龍頭正博
新年会を兼ねた幹事会で『よいかい』を紹介する原稿作成の依頼を受けた。10年後には65歳以上の5人に1人が認知症患者になるらしいとのこと。認知症予防と脳トレを兼ねて、ほぼ1年前を思い出しながらペンを取った（キーを叩いた）。

平成6年、故岩原武司君の尽力で始まった関東地区在住の41年卒同期会『よいかい』は昨年20年を迎えた。明善同窓会関東支部前会長の別府秀喜君の努力で、ここ数年は日比谷公園の桜を眼下に楽しめる日本プレスセンター9F宴会場で開催している。

今回は、20年皆勤賞の古賀啓子さん他28名が参加。講談修行中の口八丁の別府君とフラダンスの能手・関満子さんが司会を担当。余儀なく欠席した中野洋一幹事長から届いた力強いメッセージを関さんが代読して楽しいひとときが始まった。

最初のプログラムは、H17年以来、7度目の来賓としてお招きした恩師杠頭一郎先生のサククス演奏。今回は、愛の讃歌、サン・トワ・マミー、テネシーワルツの3曲が、愛のメッセージを込めて熱演された。素晴らしい演奏に、ダンス競技1級を目指す白石時憲君が粉川美穂子さんとプログラムに無かった華麗なステップを披露。76歳の杠先生は、5年前からアルトサククスに取り組み、年を取る暇もなくお元氣にお過ごしです。

尚、今回はH25年12月逝去した原秀一君のご息女三貴さんをお招きした。三貴さんから、「父にとって『よいかい』同期生との語らいが心の支えになっていました」と聞いて、同期生の大切さと絆を感じた。

さて、酒好きに取って毎回の楽しみがある。それは幻の焼酎、本格芋焼酎を心行くまで味わえることだ。今回も共同通信社鹿兒島支局長経験がある松本紀生君の骨折りで、森伊蔵と佐藤が会場に届けられた。美味しいお酒



が入り、歓談が進む中、諸氏より近況報告。広島から毎回出席の佐々木芳文君は、17歳になる老犬への老々介護について、宝塚から参加の熊丸善夫君は、98歳の御母上の穏やかな最期について、両名の心優しい一面を披露。10年振りの井手正明君は、ゴルフ、バイク三昧を卒業し、外人模擬患者のボランティアを契機に英語力を磨いていると報告。教員稼業に区切りがつき9年振り復帰した稲見憲子さんは、KMJ（久留米明善女子）のセンターを目指すと言。 （後日、稲見さんには『よいかい』幹事に就任してもらった） あつという間に時間が過ぎ、次年度幹事長に田坂和夫君を満場一致で選出。最後は、楠敏美君の音頭で、校歌、応援歌を全員で合唱し閉会となった。二次会は例年通り、新橋「集」に集い名残を惜しんだ。

『よいかい』では、H29年春頃に『古希を祝う云』を、久留米および福岡の41年卒同期生と合同で開催しようと企画、今後も仲間との絆を大切にしていこうつもりである。

Ｕターンふるさと…！

昭和43年卒 池田 謙



筆者は左から2人目

ひよんな事から久留米へ戻ることになった。定年で一旦リセットし、何をやるうかと暇を持て余している所に、仕事の話が舞い込んできた。おぼろげに定年後は故郷に帰ろうか、と考えていた時期もあり、意を決して単身久留米の地に足を踏み入れて4年が過ぎ去った。最初の1、2年は休みになると懐かしい場所や、子供の頃に行けなかった祭りや名所を歩き回った。それにしても久留米はまだまだ自然が豊かである。朝起きてベランダのカーテンを開けると正面に高良山が飛び込んでくる。後方には耳納連山が連なり、発心山、鷹取山が眺められる。右手には明星山の山並みが続く。横浜の自宅には無い風情に心が和む。休みには遅めの朝食を取りながら「高良山まで歩くか。」と思いつくままに動く。時には展望台のベンチで2、3時間本を読み、登り口の蕎麦屋で昼食を取り、と故郷の緩やかな時の流れを楽しむ。

周辺にも魅力的な大自然が身近に広がる。2年目を過ぎる頃から同窓生と九州の山々を散策することが多くなった。この3年余りの間に久住山系、阿蘇、霧島、そして名も知らなかった低山の山々を歩く。休みになると朝集合して車で走ること2時間余、登山口から2

（3時間で山頂へ、頂上からのパノラマを見ながらの昼食、午後3時頃に下山し近くの立ち寄り湯で温泉に浸かって夕方には久留米へ。都会では得られなかった空間に身を任せる。山頂で、そして湯の中で懐かしい面々と昔話に健康に、と話は尽きない。

また横浜に戻った折には、関東の43生と同窓会や一泊二日の旅を楽しむ。正倉院展、中尊寺から角館へ、長谷寺から室生寺、上高地と…。

明善を離れて半世紀、それぞれの人生を歩み今、集う老いを感じながらも、端々に学生時代が顔を覗かせる。何時までも元氣な笑顔に会えることを願う…。

誰かがぼつと言った「明善に行って、よかつたばい！」

同窓会旅行観光記

69会 昭和44年卒 半田知勝

「都心で2次会、3次会して終電過ぎてタクシード帰るより、泊まりでやった方が疲れんし、安上がりじゃなか」と還暦過ぎの紳士淑女の要望があり、忘年同窓会が1泊旅行となつて3年目。今回も、69会のゴルフ好きが集まる69ゴルフ会に相乗りで、11月21日・22日蓼科へ行ってきた。



久留米からの5名を含め、総勢25名（内ゴルフ組11名）の参加。現地集合としたが、最寄り駅のJR茅野駅から宿までの交通が多少不便なこともあり、ゴルフ組の半数が車で来るので、電車組は茅野駅でピックアップしてもらい途中散策しながらの集合とした。夕食はバイキング方式飲み放題で食材は地場の野菜やお肉・豊富なデザート、特に新鮮な野菜が大変美味しかったと女性陣には大好評。夕食後、幹事部屋に全員が集まり2次会、10月に開催された久留米の大同窓会のDVD上映、写真帳の回覧も手伝って大いに盛り上がる。ゴルフ組以外のメンバーは3次会、終電を気にすることなく飲みました。

翌朝ゴルフ組は7時半に朝食を済ませ喜々としてゴルフへ、スコアは内緒です。他のメンバーはゆっくりと休んで茅野駅行きシャトルバスに乗り、茅野駅で解散。そのまま東京に戻り都心で宴会をするグループ、松本方面、清里方面を観光するグループと思いいに分かれた。

前日に続いて良い天気だ思っていた程寒くもなく、

私たちは5名で清里観光と洒落込んだ。清里では、市電車で内装が木製のレトロ調周遊バスを利用し、「美し森」と「清泉寮」を訪れた。美し森バス停の傍から山頂までは木造の階段があり、それを見てはなかなかの止め観光案内所で休憩する人、途中までしか登らなかった人もいましたが、15分程頑張つて登ると標高1542mの山頂に到着した。山頂から八ヶ岳をはじめ、南アルプス、富士山、秩父連山など素晴らしい山々の大パノラマを望むことができた。清泉寮といえばソフトラームが有名、皆で食べながら、八ヶ岳や富士山の景観を楽しみました。食べている姿は、学校帰りの買い食いの様でした。

もう少し時間があれば、ハイランドパークや吐竜の滝にも行ってみたいところでしたが、久々に大自然を満喫できた。

69会は平成4年に原宿で第1回同窓会を開いてから23年目を迎えました。寄ると触ると健康の話が多くなりましたが、まずは30周年を皆で迎えられる様に、私もウォーキングシューズを買いに行こうと思っています。

秋の夜長の新鮮な旧交

昭和45年卒 正木春彦

明善の3年間は濃かった。同期生は多士済々。私には今も、関東ではとくに1年と3年の時の友人が多い。黒岩宏司君も1年と3年で同級だった。彼は1年の時からから天文部に入っていた。東京に出てしばらくしたら、彼は気象庁の台風予報官になっていた。年賀状を交わす程度でほとんど会うことはなかったが、10年ほど前に、彼は気象庁からジュネーブにある世界気象機関(WMO)本部に派遣された。その後、WMOの職員になって活躍しているようであったが、たまに電子メールで、アルプスの景色のこと、地球温暖化の話題などをやりとりしていた。その彼が、昨年の年賀状で8年になるWMOを退職し、初夏頃日本に帰ってくるという。

帰国したら旧友で歓迎会をやるかと構えていたが、実際に近づくとも彼もいろいろ忙しくなり、こちらも時間が取れず、そのうち彼には、JICAからフィジーに派遣されて南太平洋諸国の気象予報官を養成する、次のミッションが迫ってきた。

そこで、彼のお出ましは2つのことに絞った。一つは、私も関係している明善のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業に、卒業生として彼を紹介すること、これは結局、明善高校創立記念講演として9月30日に実現した。戦後理科教育の黄金時代を過ごした私どもの世代にとっては懐かしいが、宇宙のこと、地球温暖化のこと、異常気象のことなど世間の興味満

年1回の同期会の集まり

昭和49年卒 牛嶋敏文
49年卒の連中はなぜか関東支部の総会には中々顔を出すことが少ないのが現状です。ここ数年は年1回いつも同じ場所で呑み会をやっています。場所は小田急玉川学園前の「イタリアーナ」です。

おしやれにイタリアンです。昨年は12月13日（土）に忘年会を兼ねて開催しました。おやじ6名、いつまでも変わらない淑女4名の計10名でシャンパン乾杯で始まりました。まあとにかく食べるは、飲むはの会でワイワイガヤガヤです。大同窓会に参加したのから、あーだった、こーだったとあり、来年は還暦なんので壇上で「新制校歌」を歌わなきゃいかんとの話が出て、なんで「新制校歌」？「旧制校歌」じゃいかんと、とかとか。

もうすぐ60になろうとしているのに元気。まあ健康で元気が一番、10月は久留米に行こうを話したと思うのですが、記憶が定かではない。なんせ最後の集合写真も撮らずに解散。楽しい写真をお見せできなくて残念です。

今年の10月は久留米で学年会とクラス会かな？年末は定年したもんで忘年会ではなく定年会をやりますよ。次回は写真付きで報告できるようにします。最後ですが関東在住のみんな、節目でもあるし、久留米か東京で会おう。連絡を待っています。

連絡は牛嶋までお願いします。 E-mail:ushijadesu@st.dion.ne.jp

大同窓会当番幹事を終えて

昭和54年卒 雨森和広
秋晴れの10月4日、久留米創世にて大同窓会が開催され、私も当番幹事の54年卒の一員として参加して来ました。

関東支部の会員としては殆どの方が当日応援という形式の参加になるのですが、幸か不幸かたまたま単身赴任で倉敷におりましたので、当日のみならず準備の段階から度々打ち合わせに参加させて頂きました。活動開始当初はなかなか参加人数が増えず、事務局もヤキモキしていたようですが、積極的な電話作戦等が功を奏し、最終的には当日140名を超える同級生が駆け付け



てくれました。

当日、私は記録班のメンバーとなったのですが、写真・ビデオで自分たちの活動の記録を残すというのが役割ということ、兎に角、撮り損ねた同級生がいらないように各持ち場をくまなく歩き回りました。JR久留米駅前、明善高校、西鉄久留米駅、会場、さらには医療スタッフがスタンバイしている控室まで…と、皆の配置リストと睨めっこしながら、ひたすら歩き回りシャッターを切り続けました。取り敢えず全員の作業の様子は撮れたと思いますが、翌日は足腰がパンパンになって、普段の運動不足と、自分の年齢を思い知ることとなりました。

当番幹事の作業（特に地元にいる同級生にとつて）は大変でしたが、在学時は一度も話したこともない同級生と随分前から友人であるかのように感じることができ、非常に有意義なイベントであったと思います。

役 職	氏 名	卒業年
幹事	池田 和也	52
	堤 孝二	52
	石橋 克郎	53
	村上 佳世	56
	海田 茂典	56
	中川原伸章	57
	安藤 聡	58
	淡河 英明	59
	島生 敦	59
	井手 秀明	60
	南 公雄	60
	小山田 剛	60
	尋木 浩司	61
	山口 裕二	61
	津留 正明	62
	久保田 葉	62

(2015年3月1日現在)

明善同窓会関東支部役員 & 幹事

関東支部は各学年の幹事で構成する幹事会で運営されています。
幹事のいない学年は正副幹事2人を決めて毎月第四木曜日に開催する幹事会に参加するようにお願いします。

役 職	氏 名	卒業年
会長	瀬戸 渡	44
副会長	樋原 茂則	27
	土肥 義政	31
	草場 正登	37
	津城 俊幸	43
	古賀 啓子	41
代表幹事	山口 務	45
副代表幹事	豊福 和弘	54
事務局長	古賀 尚之	45
副事務局長	五十嵐恵美子	47
監査役	本村 龍史	46
	尋木 浩司	61
顧 問	泉 信也	31
	古賀 一成	41
	大久保 勉	54
相談役	松平 信之	31
	別府 秀喜	41
ゴルフ委員長	山下 政晴	43

役 職	氏 名	卒業年
HP 委員長	古賀 尚之	45
名簿委員長	五十嵐恵美子	47
会報委員長	内田 直人	51
学生会委員長	伊東 美晃	55
幹事	飛永 信雄	28
	吉村 幸則	32
	高良 季征	35
	大山 展生	40
	加藤ムツ子	42
	長岡 健	42
	岡崎ヒサ子	44
	井上 正則	45
	江端 智恵	46
	新居 之昌	48
	加賀 譲治	48
	牛嶋 敏文	49
	野田 恭弘	50
	古賀 裕明	50

～懐かしき学び舎～

学び舎が建替え中、最後の悲しい姿と新校舎の様子をお届けします。完成は平成 29 年 12 月予定。



伝統の正門は昔と変わらぬ姿です。手前の旧本館棟が取壊され、新本館棟（玄関、管理部門、教室）3階部分が少し顔を出しています。



手前の旧本館棟が無残にも取壊し中です。新本館棟が姿を現しています。側面から屋根形状が切り妻屋根（傾斜型）となっていることがわかります。これから新本館棟の右側に新東棟（職員室、大会議室、特別教室）が建てられ完成に近づきます。



新本館棟にも昔と変わらぬ中庭に抜けるアーチ型の通路が完成しています。この雰囲気は昔を思い出すのではないのでしょうか。



取壊し前の旧本館棟の様子、残念ながらもうこの姿を見ることはできません。

第10回、第11回ゴルフ大会開催

第10回大会は、本来であれば2013年10月に開催される予定でしたが直前の台風の影響で中止となり、「明善ゴルフは雨になる！」というジンクスの最たるものでした。改めて2014年4月19日（土）水戸ゴルフクラブにて開催されました。この日は明善ゴルフとしては珍しく晴れの日でした。

参加者は昭和33年卒から平成13年卒までの老若男女23名（うち女子2名）。南コース、北コース3組ずつに分かれ、9時38分に同時スタート。ハンディキャップ戦で優勝はネット70で長岡健さん（42卒）、準優勝は70で古賀尚之さん（45卒）。3位は74で山口裕二さん（56卒）でした。B Gは89で田中辰夫さん（33卒）、本田匡史さん（55卒）の二人でした。



今回は満を持して優勝を狙っていた古賀さんが残念ながら同ネットでもハンディが少ない長岡さんに優勝をもっていきました。下馬評でも優勝の筆頭候補は古賀さんでしたが…。又、どういうわけかDCは岡崎ヒサ子さん（44卒）が2つも取りました。今回の参加者の平均年齢は約60歳でした。

第11回大会は、2014年10月18日（土）に大熱海国際ゴルフクラブ大仁コースにて開催されました。参加者はいつもより少なめの19名。うち初参加者が3名。平均年齢約65歳。熟年組が頑張っております。貸切バス利用者は12名で7時に東京駅を出発。ハンディキャップ戦で結果は優勝はネット71で椿博行さん（41卒）、準優勝は75で島津敬さん（42卒）、3位は75で瀬戸渡さん（44卒）、B Bは89でK・Iさん（常連 B B 定着か?）。ベストグロスは85で椿博行さん、ワーストグロスは124でした。（名前は公表せず）

久留米弁丸出しの和気藹々とした楽しい一日でした。帰りのバスのなかはいつもの如くアルコール持ち込んでの宴会。参加賞は「くるめつ娘ラーメン」でした。

現在ゴルフ会のメンバーは昭和33年卒から平成13年卒、更に学生を含め総勢65名です。若い同窓生、及び女性の積極的な参加を切望しております。第1回（2009年5月）から今回の第11回までの皆勤賞は5名います。今回は2015年4月11日（土）霞南ゴルフ倶楽部（稲敷市）。

ゴルフ委員長 昭和43年卒 山下政晴

第48回明善大同窓会へのお誘い

第48回実行委員長 昭和55年卒 寺崎雅巳
○日時 平成27年10月11日(日) 14時30分開会
○場所 ホテルマリタール創世
○テーマ 「原点回帰 (克己・盡力・楽天)」
○会費 六千円



明善同窓会関東支部の皆様、こんにちは。今年の第48回大同窓会を担当させていただきます。明善55会の寺崎です。諸先輩方がこれまで脈々と受け継がれてこられた伝統ある大同窓会の担当を引き継ぎますことは、その重責に身が引き締まる思いでございますが、55会の素晴らしい仲間たちと心を一つにして、皆様が無事とお願いいたします。誠に誠意、真心をもって努めさせていただきます覚悟でございます。一人でも多くのご参加をお待ちしておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今年のテーマは、「原点回帰」。私たちの原点は、久留米であり、明善高校です。笑ったり、泣いたり、喜んだり、悩んだりした、若き青春のページは、忘れることなくそつと私たちの心の中に秘めています。校訓であります「克己・盡力・楽天」の意味や奥深さを、卒業してさらに、かみ締めている日々ではないでしょうか。私たちの生きる指針として息づいている校訓を通して、私たちの青春時代を回顧し、語り合い、古きをたずねて新しきを知る、そして未来へという思いをこめてこのテーマに決めさせていただきました。

今年の大同窓会では、変わり行く町並み、懐かしの通学路、あの町この町など、古き時代を懐かしみながら新しき時代への移り変わりを感じていただけたら、スライドで綴る過去と今や、久留米を象徴する伝統工芸品のイベントや記念品、そして驚きのゲスト出演など、楽しんでいただける企画や心に残る記念品を予定しています。

私たち55会は、11年前から、組織を立ち上げ、担当に向けて粛々と準備を進めてまいりました。何かと不行き届きの点も多々あるかと思いますが、久しぶりに久留米に里帰りしていただき、旧友の皆様とそして先輩、後輩の方々と同窓の輪を拡げていただければ幸いです。

結びになりますが、関東支部の瀬戸渡会長はじめ、支部の皆様方の益々のご健勝とご多幸を祈念し、平成27年明善大同窓会へのお誘いの挨拶とさせていただきます。

特集：学生は今

明善オーケストラに「ブラヴォー」

昭和45年卒 豊島健次

7月28日、つくば市ノバホール、全国高等学校総合文化祭で「ウィンザーの陽気な女房たち序曲」を聞きました。私は明善高校時代サッカー部で、オーケストラ部の演奏を聴くのも初めて、予備知識も殆どなしで会場に足を運びました。



感激しました。冒頭第一バイオリンのピアノシモから完璧なまでに抑制の効いた美しい音色とアンサンブル。彼らの楽器は彼らの心を映し私の心に響きました。目を閉じて「ここは彼のウィーン楽友協会大ホールか?」：とは思いませんでした。が、演奏と私は完全にシンクロ、否、オーケストラ部の言葉を借りれば「響き合い」しました。演奏終了。四分休符フェルマータ付き、そして「ブラヴォー!」のかけ声は私だけではありませんでした。最後に若い感性を見事にまとめられたマエストロ口限丸先生、ありがとうございます。

「学生の会」の感想
もつと若手の先輩方と交流できれば

平成22年卒 光安琢磨

11月15日に「学生の会」が、神田有薫で開催されました。この会は、先輩方が関東在住の学生に生活や就職活動など様々な面でサポートしていただくという趣旨です。4回ほど開催されています。今回は、先輩方12名、学生26名の計38名の方々に参加していただきました。親身となつていただいた先輩方の自己紹介、学生からの質問、学生の自己紹介、歓談、記念撮影と、あつという間に時間が過ぎていくといった感じのもので、2次会にも多くの学生が集い、とても有意義な会でした。

ここからは、参加学生を対象に行ったアンケートをもとに、この会への感想や要望をまとめたものです。まず、会の満足度を5段階評価で問うところ、4.6という結果であり学生にとって大変有意義な会であったといえます。最も多い感想としては、普段は聞くこ

とのできない社会人の貴重なお話を聞くことができたということでした。我々学生は、ほとんどが親元を離れたなかなか同年代以外の人と話す機会がないという状況の中で、明善生というつながりだけで先輩とお話できることは、とても安心できるものであり、自然と久留米弁も飛び交うことで、さらに親近感が高まる状況で楽しく過ごすことができました。様々なキャリアを積み、我々の良いお手本でもある明善生の先輩のいろいろなお話は、就活を控える将来の指針が定まってい

ない我々にとっては、将来の自分への道標であり、新たな可能性が見つかるきっかけとなったと思います。アンケートでの要望として多かったのは、もつと多くの社会人の方々に参加していただきたい、特に20~40代の先輩方に来ていただきたいとのことでした。また、同期の学生と久々に顔をあわせる機会にもなっており、この会がきっかけで定期的集まるような会も開かれていくという話も出ています。また、そもそもこの会がどれほど認知されているのかという問題も挙げられました。広報力と言った観点からまだまだ弱いと思いますので、これからは関東支部、そして明善高校とも連携を密にしていきたいと考えております。

一人でも多くの先輩方に参加してもらい、お話ししていただくことで、我々は刺激を受け、学生生活のモチベーションになります。お忙しいとは思いますが、奮っての参加をお待ちしております。



学生報 「ラグビー日本選手権に出場
慶應大学3の神戸製鋼」

平成23年卒 慶應義塾大学3年 出口 桂

私は2月8日に行われたラグビーの日本選手権に出場しました。対戦相手は神戸製鋼で、日本代表レベルの選手を多数かかえており、トップリーグのプレーオフでは3位というかなりの強豪チームです。慶應義塾

は昨年の日本選手権でも同じ神戸製鋼と試合をし、その時は0対100で敗北しました。昨年のその試合に私は出場できなかったのですが、社会人のプロチームと学生との圧倒的力の差をみせつけられ、さすがだなと妙に納得した気持ちがありました。

そして今年、試合のメンバーが発表され私が選ばれたとき、うれしかった半面ともに戦えるだろうかという不安もありました。私はいつも、試合が決まると多くの不安要素を自分の中で消していく作業をします。しかし、この時ばかりは全ての不安を払拭するのは難しく、試合当日は、ほぼやけになっていました。もう馬鹿になってがむしゃらにやろうと思っていました。ラグビーの良いところは、腹をくくって馬鹿になつてしまえばなんだったとできることだと思えますし、そこが私の好きなところでもあります。あの時は試合出場メンバーの23人全員が、神戸製鋼に一矢報いてやろうと心の中で静かに燃えているのを感じました。恐怖は仲間伝染しますが、同じように勇気も仲間伝染します。一人のタックルで試合の流れが変わるのも、タックルする勇気が仲間伝染していくからだと思います。

試合が始まって、やはり私たちの思ったようにはいきませんでした。それでも一人一人が必死で闘ってタックルし続けました。結果は7対76で負けてしまいましたが、昨年の結果を超えることと1トライでもいいので得点を獲得することを目標にしていたので、私たちは目標を達成してシーズンを終えることができました。

私自身もこの試合を通して、社会人からたくさんスキルを盗むことができ、プレーの1つ1つの精度を高めることができました。そして何より、強い敵と戦うスリルや、ラグビーの良いところ、ラグビーの醍醐味を改めて体で感じる事ができました。体をぶつけてみて、岩と戦っているような感覚がしたときは体が震えましたが、その岩に自分のスキルが通用するぞ、という感覚を何度か味わえたことは必ず次のチーム作り

に役立つと思っています。

来シーズンになったらいよいよ最終学年となり、ラグビーに打ち込むことも最後になるかもしれません。小学4年生から始めたラグビー人生に悔いを残さないために、最後の一年間慶應義塾大学で死ぬ気で頑張りたいと思います。今後とも御声援宜しくお願い致します。(写真 上段中央、175cm・98kg)



平成27年度総会幹事を担って

昭和62年卒 久保田 葉



丁度NHKの「鶴瓶の家族に乾杯」で久留米市が放送されているのを見ながら、ビール片手にパソコンに向かい書き始めました。久しぶりに見る水天宮や筑後川の風景が映し出されると、昔むかし神輿担ぎ、花火大会などワクワク楽しみに行ってた頃を思い出し、なんだかほっこりとした気分になれビールも筆も自然に進みます。

明善高校卒業後、筑波大学、リクルート、東京日本橋でメンタル屋として独立、と進んでこれまで28年ふと気付くと久留米で過ごした18年をはるかに超えるお江戸暮らしとなっていることに驚かされます。

そんな中、関東支部総会幹事のお声がかかったのがきっかけとなり、昨年11月、卒業から28年ぶりに同期14人のプチ同志会が実現しました。28年ぶりの再会は誰か到着するたびに敬語で「お久しぶりです」と、なんだかヨソヨソしい感じで微笑ましいスタートとなりました。それもそのはず、原型を留めている人もいれば、うーん、誰だっけ？という見事な大変身(いい意味で(笑))を遂げた人もあり、まずはお互いに探り合い大会。

卒業アルバム片手に「同じクラスになったっけ？」と少しづつ微かな記憶を手繰り寄せながら、ともあれ同じ釜の飯を食った仲間、時間をかけずに賑やかな夜となりました。

こんな素晴らしい再会も、同志会幹事という役割を担わなければならなかったのだらうなあとと思うと、改めて大役をお任せ頂いたこと、そしてこれまで脈々と明善イズムを引継ぎ、守られて来られた諸先輩方に感謝・感謝です。

昨年61年卒の先輩方の非常にまとまりのある見事な幹事っぷりを拝見した後ですので、プレッシャーも多々ありますが、諸先輩方に楽しんで頂ける場づくりができればと思っていますので、みなさままたお元気な姿でお集まり頂けますようよろしくお願いします。

平成26年度総会幹事を終えて

昭和61年卒 尋木浩司

人の生き方には、西洋文化に代表される Dream come true 型の自己目的達成型と日本に古くからある天命追求型の二つがある。天命追求型の生き方は、自欲に打ち克ち、自分の周囲の人の笑顔を何よりも優先しながら、今、自分の置かれた環境でベストを尽くす。それを続けていくことで天命に選ばれ、いつしか自分では予想もしなかった高みに到達するという考え方である。そこでは、自分の夢だけを叶えることよりも周囲に喜びや笑顔を与える精神、すなわち、「志」が極めて重要となる。

この天命追求型の生き方は、「克己、尽力、楽天」という明善の校訓と見事に重なる。人は、受験勉強、資格取得等、全てにおいてビジョン(夢・目的)を描き、それを実現するために目標を立てて大人になって行くが、天命追求型の生き方は極めて社会の中で生きていく上で重要ではないかと思う。

昨年、明善関東支部総会・同志会の担当幹事を担当して31名もの同期が集い、同様の「志」で173名の明善健児の笑顔を見ることができたのは、他では得がたい幸福であった。

振り返ると、平成25年7月31日、新宿三丁目にある焼肉屋で明善高61年卒のメンバー16名で明善関東支部総会・同志会実行委員会の決起集会を開催し、そこから同志会当日までの約10ヶ月間、明善大運動会の時のような炎の結束力と各自の献身的且つ効率的な役割分担で準備を進め、諸先輩方の暖かいご支援、ご協力も頂きながら、平成26年5月10日午後1時頃から虎ノ門にある東海大学校友会館にて明善関東支部総会・同志会を無事スタートすることができた。

総会・同志会には昭和21年卒から平成26年卒までの幅広い年齢層の174名の参加者が集まり、同期の関東学院大学経済学部教授・前副学長である田中史生氏の「九州から見た古代史」というテーマの興味深い講演や、恒例となった「ご当地クイズ」等で盛り上がり、多数の協賛品やお酒の勢いもあって大変賑やかな



明球会(明善野球部OB会)の活動

11月24日、明善と秋田高校の野球部OB交流戦「第7回秋明戦」を東大野球場で行った。これまで明善の1勝5敗、19回の甲子園出場を誇る秋田に対して雪辱をかけた一戦に別府監督以下20人が力を振るった。先発は往年の名投手草場(37年卒)、失点すれば即交代を条件に登板した。毎年引退試合を先延ばしにした草場投手の軟投に秋田打線も柔軟に対応し、初回から安打出塁、甲子園経験の主砲に2点本塁打を浴び、悔しくもあるが潔く降板した。その後、明善では46歳若手の久保田投手(62年卒)が長期リリーフ登板、残りイニングを力投した。今年の明善は取られたら取り返す、初回1点を返し、その後も失点と得点を繰り返して緊張の続く接戦、6回裏2点を追加5対4に迫った。最終回、平均年齢差10歳、若い秋田選手の鋭い打球、明善も守備の乱れで4点失点、久保田の力投及ばず9対4でゲームセット。残念ではあるが雪辱ならず。場所を代えての延長戦は両校の酒豪が現役時代の自慢話や故郷話で盛り上がったことは言うまでもない。

2月7日、明球会恒例の新年会を開催、今年の雪辱にかけて団結を強めた。往年の名選手も歳を重ね、日頃の体力と技術向上を誓い合った。また若手OBの参加も戦力アップに繋げようということに。ちなみに東京六大学・立教大学で明善野球部卒業生の高尾雅之君(新4年、学生コーチ)、高尾輝輝君(新2年、一塁手)が活躍しており、応援をお願いするともに将来に期待する。

悲しい知らせとして、関東明球会 本村政治前会長(26年卒)が7月に逝去された。本村氏は明善から早稲田大学野球部へ進み主将で活躍された。最近では早大野球部OB会・稲門倶楽部会長、日本学生野球連盟理事などを歴任、アマチュア野球の発展に貢献された。また、アマチュア野球歴史の調査研究を長年ライフワークとして取り組み、まさに我が国のアマチュア野球の生き字引でもあった。(拝)



昭和51年卒 内田直人

会となった。

総会・同志会自体も素晴らしいだったが、27年の時を超えて再会した仲間との熱き友情が復活したのは本当に何事にも替え難い貴重な体験であった。今回の関東支部同志会には、久留米在住の同期である仲間も素晴らしい協賛品の提供もあって、懐かしいご当地のお土産や心暖まる「筑後弁」に包まれた至福の時間は深夜遅くまで続いた。

日(日)午後2時より東京オペラシティ・リサイタルホールにて「アフタヌーン・コンサート」を開催します。"ときめき"をテーマに名曲をお聴きいただこうと思っております。連休中となりますがぜひ足を運び頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

編集後記

昨年11月に学生の会が開催され参加した学生から記事が届いた。参加者26名の満足度は5段階評価で4.6とのこと、若い世代と先輩方との交流は意義あることが確認できた。一方で、大先輩方よりも歳の近い若い年代との交流や情報を期待している様子。世代を超えて参加したいと感じられる同志会活動、真似してみたいと思う同期会活動、これからの紹介が続けたい。

明善高校では、昨年より公式Facebookが開設されました。母校の最新情報、旧友との再会に繋がることはもとより、ネットを多用する若い世代の方々の同志会活動に生かされることを期待したい。

<https://www.facebook.com/meizenofficial>

本報に偶然にも豊島さん(兄弟より投稿があった。兄弟投稿は初めてだろうと幹事会で話題となった。偶然読んだ記事を書きかけに昔の思い出が蘇ったり、懐かしい再会に繋がればうれしい限りである。

アフタヌーン・コンサートのご案内

昭和56年卒 秋永佳世

昨年10月のトッパンホールでのコンサートの際は沢山の先輩同輩の方々にご来場いただき誌面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。今年9月20

